

# 水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会  
 発行 富士見市立水谷公民館 富士見市水谷1-13-6  
 TEL049(251)1129・FAX049(255)9886・✉ fkm-mi@coral.ocn.ne.jp

身近なところにある江川とその周辺の田んぼ、休耕田、屋敷林の周辺で見られる野鳥たちを紹介したいと思います。

長年観察を重ねているうちに、大きな問題となつていく地球環境、都市開発による気象環境の変化、休憩場所の減少などにより、野鳥たちも少しずつ影響が出ているのでは、と思つているところです。

ご多分にもれず、水谷地区も市街化が進み、住宅地になってきています。

年によって変わることがあります。昨年観察できた野鳥が今年一度も観察することができないことがあ

ります。また、今までは居なかつた鳥が初めて観察できることもあります。でも、鳥の数や種類から見ると、年々減少していると感じています。

渡り鳥は、人間よりも気象条件の変化、休憩場所の居心地の良し悪しの変わりようを、敏感に感じ取つていっているのではないかと思います。

私の住む街も、都市開発が進む中、身近なところでも色々な野鳥が見られることの素晴らしさを感じつつ、残された自然を大切に守ることができたらと思います。

水谷第1町会在住  
 写真提供 阿部 等



↑カラー版では、色とりどりの鳥が見られます。コチラからご覧いただけます(11月1日以降)

- ①鳥の大きさ
- ②鳥の色
- ③撮影場所
- ④特徴など

## 地域で見かける鳥

旅支度のカバンを持って……がでなくなつて久しいです。♪知らない街を歩いてみたくらいの気分です。ね。

ですが、地元でも視線を変えてみれば新たな発見も。この地域の春夏秋冬、とても多くの鳥たちがいるようです。地元の自然の中で人々と共生する鳥たちや、小さな羽で遠くからここを目指して飛んでくる幾種類もの渡り鳥など。

今回は肉眼では見きれない鳥たちの表情を、阿部さんの望遠の一眼レフカメラから覗いてみましょう。いろいろな鳥たちのさえずりが聞こえてくるようで、ちよつとした気分転換になりませんか。少し明るい兆しの見えてきた明日に期待しましょう。

担当 大槻編集委員



カケス

- ①約33cm
- ②羽の色が美しく、黒・白・青が模様をつくる。
- ③鶴馬氷川神社境内
- ④ドングリ好き、貯食で森を育てる役割を果たす。



ジョウビタキ(オス)

- ①約14cm
- ②胸から尾にかけて橙色
- ③打越市民農園付近
- ④冬鳥として全国に飛来。



ウグイス

- ①約14cm
- ②背中がオリーブ色
- ③市内緑地・御庵付近
- ④日本三名鳥の一つ。春吉げ鳥とも呼ばれる。



アオジ

- ①約16cm(スズメ程度)
- ②上面は褐色の羽毛、黒色の縦じま。尾羽は赤褐色。
- ③打越市民農園付近
- ④冬の間は数羽の群れで行動。



シロハラ

- ①約25cm
- ②灰褐色
- ③市内緑地・御庵付近
- ④藪の中で枯れ葉をかき分け昆虫やミミズ、果実を食べる。



アトリ

- ①約16cm
- ②黄褐色を基調に、黒・白を加えた羽色をもつ。
- ③鶴馬氷川神社付近
- ④冬鳥として全国に飛来。



カンムリカイツブリ

- ①約56cm
- ②上面は黒褐色、下面は白。
- ③江川と新河岸川の合流地点
- ④目撃は年に1回程度で、めづらしい鳥。



バン

- ①約35cm(ハト程度)
- ②体は黒色、背は雨覆に褐色みがある。
- ③市内江川下流
- ④額板と嘴は赤く、先端が黄色。



オオタカ

- ①約50cm
- ②灰色
- ③水谷地区内
- ④環境省レッドリストでは、準絶滅危惧種。



カルガモ親子

- ①約61cm
- ②黒褐色
- ③江川(山崎公園横)付近
- ④日本産カモ類で唯一、留鳥として分布。



カワラヒワ

- ①約14cm
- ②黄褐色
- ③江川と新河岸川の合流地点
- ④畑や庭先に子群で現れる。



ルリビタキ(メス)

- ①約14cm
- ②上面のオリーブ褐色、脇の橙色が目印
- ③市内緑地・御庵付近
- ④冬は平地や山地の村に移動。都市公園にも現れる。



カワセミ

- ①約17cm
- ②鮮やかな水色の体。
- ③江川鶴橋付近
- ④富士見市の鳥。翡翠の名を持つ、水辺の宝石。



オジロビタキ(メス)

①約12cm ②上面が淡い灰褐色、喉が淡色、嘴は黒③市内緑地・御庵付近④日本にまれに迷行してくるだけの鳥。カムチャッカ半島で繁殖し、インド等の南国で越冬する。その時に、迷ってくる。

珍しい鳥：4年から5年に1度しか見られない鳥です。迷鳥として富士見市にやってきましたが、原因はわかりませんが、



ハイタカ

見なくなった鳥：江川と新河岸川の合流地点に、かつて柳の木があり、現在は伐採されました。観察することができなくなり、観るようになりました。

①約39cm ②背面が灰色、腹面に栗褐色の横じま③江川と新河岸川の合流地点

説明文の一部は、真木広造著「名肌かわかる野鳥大鑑」(永岡書店)を参考としました。